

縁結び・出雲の地から「和譲」発信

出雲大社で和譲フォーラム

オオクニヤシノミコトが平和裏に国譲りをしたことから生まれた「和譲」の心を、世界平和を願い発信していることと二十一日、「和譲神在月平和フォーラム」が出雲市大社町の出雲大社社務所であった。全世界で約四百万人の実践者があるマクロビオティックの権威、久司道夫氏が「食を通じて世界平和への道」と題して、また、エリ・コーヘン駐日イスラエル大使が「中東和平と日本 出雲への期待」と題して講演。約百人が聞き入った。人間自然科学研究所（小松昭夫理事長）の主催。

久司氏は、人類の平和にはバランスのとれた健康食「マクロビオティック食」が必要であると訴え、その啓発・普及活動に取り組んでいる。講演では、世界の人口の急増や貧困問題、食糧問題、文明国における妊娠率の低下、家庭崩壊、国際紛争の増加を背景とする世界戦争の危機、エネルギー問題など、人類が今避けることのできない危機に直面していることを指摘。それをただすには、穀物



基調講演するコーヘン駐日イスラエル大使

中心の食生活に改めていることや、産業革命を起すこと、新たなエネルギーを発見すること、一国で手に負えない問題の解決を目指し世界連邦をつ

くること、対立する科学や宗教が人類愛に基づき普遍的思想を生み出す必要があることなどを訴えた。その上で「八百万の神々が集まり合議をした出雲に、全世界の人々が集って合議を開き、世界平和を目指して発信していけたら大変素晴らしい」と述べた。

一方コーヘン大使は、

一九四九年エルサレムに生まれたときから多くの紛争を経験してきた中で、イスラエルが最大の敵であったエジプトやヨルダンと和平協定を結べたことを示し、「最大の問題はパレスチナ。エジプトやヨルダンとは違い国の中でうまくやっていかなれないといけない。良いときも悪いときもあったが、ようやく和平協定へのプロセスに入った気がする」と話した。

また、イスラエルが隣国で発生した自然災害に対する支援活動やヨルダンへの積極的な技術支援を行っていること、現在イスラエルでは、地中海などから死海へパイプラインを引き、かんがい用水や淡水化をして飲料水として確保するプロジェクトがあり、そこで得た水をパレスチナへも供給する予定であることを紹介。「我々は今、平和への活動を始めている。今日お集まりの皆さんもその

活動の一員として、傍聴しているだけでなく動いて欲しい。そして自分の周りの人々へも働きかけいっしょに運動を起せば、必ずや世界平和は達成できるはず」と訴えた。

最後に、フォーラムの開催を契機に、和譲平和学の研究と世界の戦争でなくなった人々を記録する平和シンボルトワーキングスの研究を進めていくことなどをつたった和譲平和フォーラム出雲宣言が読み上げられ、出席者全員が賛同。小松理事長が「久司先生、コーヘン大使お二人から力強いエール、アドバイスをいただいた。お集まりいただいた皆さまと共有しながら世界の恒久平和を目指して頑張っていきたい」と述べ、フォーラムを締めくくった。